

個人と社会に豊かさをもたらす消費の実践パターン分析

政策・メディア研究科2年

鎌田安里紗

論文タイトル

「気づきのメディアとしてのパターン・ランゲージ～Ethical Lifestyle Patternsの制作とその活用～」

論文要旨

本稿の目的は、「エシカル」なライフスタイルの実践を支援するパターン・ランゲージを作成し、それをどのように活用できるかを明らかにすることである。20世紀に発展した大量生産は、社会のモノに対するニーズを満たすことに貢献したが一方で、原料としての資源の枯渇、生産時のエネルギー浪費、廃棄物の氾濫、さらにはライフスタイルの変革(大量生産・大量消費)をもたらした(亀井, 2008)。これらの問題に対応するため、また21世紀以降の世代への持続可能な社会を保持するための方策として、エシカル消費を始めとする、日々の暮らしと社会の繋がり、環境への影響を意識するための働きかけが進められてきている。しかし、より良い社会に向かうための人や自然に配慮した「エシカル」な生産や消費のあり方、ひいては「エシカル」な暮らしのあり方は、絶対的で固定的な解を示すことができない領域である。様々なスローガンやアクションが提示されているが、結局は各人が自らの価値観に照らして、自らの消費行動やライフスタイルについてよく考え、実践していかななくてはならない。本研究では、そうした絶対的で固定的な解がない領域における思考と行動をサポートするツールとしてパターン・ランゲージに注目した。

本研究では、インタビューを通して「エシカル」なライフスタイルの「経験則」を言語化し、『Ethical Lifestyle Patterns』を作成した。さらに、作成した『Ethical Lifestyle Patterns』をいくつかの方法で活用することによって、パターンがどのような機能を果たすかの分析と考察を行った。

本稿で見出されたのは、以下の3点である。①『Ethical Lifestyle Patterns』は、「認識のめがね」「思考の構成要素」「コミュニケーションの語彙」としての機能を果たす。②インスタグラムの活用により、暮らしの中で『Ethical Lifestyle

Patterns』が活用され、またそれが可視化される。③『Ethical Lifestyle Patterns』は「気づきのメディア」としての機能を果たす。



<制作の様子>



<Ethical Lifestyle Patterns 全体像>